

中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年2月29日号

©2008年1月小麦市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年1月における小麦市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 2007年の小麦輸出は増加、輸入は減少

海関統計によると、2007年の中国の小麦輸出量は前年比1.1倍増の233.66万トン、同じく輸入量は85.6%減の8.34万トンとなった。小麦の主要輸出相手国は中国の周辺国で、うち韓国向けが42.2%、インドネシア向けが22.9%、フィリピン向けが17.9%と、この3カ国で83%を占めている。小麦の主要輸入相手国はカナダ、オーストラリアおよび米国で、それぞれ52.9%、27.7%および19.5%を占める。

中国政府は、2007年12月20日から小麦などの未加工食糧およびその加工製品の輸出税還付を取り消したほか、2008年には小麦、トウモロコシ、モミ、コメ、大豆などの未加工食糧およびその穀物粉に対し、5～25%の暫定輸出税（麦類および麦類の粉は、それぞれ20%および25%）を賦課し、同時に穀物粉に対する輸出関税割当許可証管理制度を実施している。これらの政策的コントロールにより、2008年の小麦輸出趨勢は、やや減速すると予測されている。

2 2007/08年度の国際小麦期末在庫量は30年来最低水準に

米国農務省（USDA）の1月の予測報告によると、2007/08年度の世界の小麦需給は、

前月の予測に比べ、生産量は69万トンの上方修正、消費量は10万トンの下方修正、期末在庫量は87万トンの上方修正となり、同年度の小麦生産量は、前年度比1.57%増の6億300万トンと見積もられている。期首在庫量が大幅に減少したことから、小麦の総供給量は1.88%減の7億2,738万トンと予測されている。消費量は前年同水準の6億1,645万トンと見積もられていることから、同年度の世界の小麦生産は需要を満足させることができず、在庫量は引き続き減少し、期末在庫量は10.81%減の1億1,093万トンとみられ、1978/79年度以降の30年間で最低と予測されている。在庫／消費比は17.99%とみられる。2007/08年度の小麦の国際価格は引き続き上昇し、輸入需要が減少するため、世界の小麦貿易量は減少すると予測されている。同年度の世界の小麦輸入量は前年度比7.54%減の1億390万トン、同じく輸入量は5.43%減の1億468万トンと見積もられている。

3 国内市場価格は安定しつつも下落

政府は2007年12月中旬以降、最低買上小麦の放出量を増加させたことから、企業用的小麦需要を基本的に満足させ、市場価格は安定しつつも下落した。2008年1月に何度か実施された最低買上小麦の競売量は400万トン以上で、平均成約量は81.2万トン、成約率は18.2%となり、1回当たりの成約量および成約率は前年12月に比べ明らかに低下した。1月下旬までの国家最低買上小麦の競売累計成約量は約3,509.2万トンで、2006年および2007年の最低買上価格小麦の買上総量の50.2%を占めている。1月下旬における鄭州市（河南省の省都）食糧卸売市場における普通小麦（一般品質の小麦）の卸売価格は、1トン当たり1,560元まで下落し、前年12月上旬に比べ60元安となった。優良小麦は中・下旬も1,670元を維持したものの、前年12月上旬に比べ40元安となった。1月の普通小麦の平均卸売価格は1トン当たり1,573元で、前月比1.9%安、前年同月比5.4%高となった。同じく優良小麦は1,675元で、前月比1.6%安、前年同月比0.3%高となった。

4 小麦の国際価格は引き続き上昇

世界の小麦需給のひっ迫や最近30年来最低とされる在庫量などを背景に、2008年1月の小麦の国際先物・現物価格は引き続き上昇し、西北大西洋の硬紅冬麦（蛋白質含有量12%）の平均離岸価格（本船渡し価格＝FOB価格）は1トン当たり419ドルで、前月比2.3%高、前年同月比では倍となった。硬紅春麦（蛋白質含有量14%）のFOB価格は496.75ドルで、前月比12.4%高、前年同月比1.3倍高となった。

2008年1月のカンザス先物取引所における硬紅冬麦の平均先物価格は1トン当たり351.0ドルで前月並み、前年同月比では94.6%高となった。ミネアポリス先物取引所における硬紅春麦の平均先物価格は同420.50ドルで、前月比6.93%高、前年同月比1.31倍高となった。年平均価格は、前年比46.81%高の246.12ドルとなった。

1月は国際価格が引き続き上昇したものの、国内価格がやや下落したことから、小麦の内外価格差は拡大した。関税、増値税および港湾諸経費などを含め総合的に考慮すると、

1月の米国メキシコ湾における硬紅冬麦（蛋白質含有量12%）の通関渡し価格（Duty Paid：C I F＋関税等）は、同月の国内優良小麦の消費地における卸売価格に比べ明らかに高く、その価格差は前月よりも200元以上拡大した。